

ホームページ等に関する業務フローの現状と課題 (愛知県西春日井郡清洲町担当者へのヒアリング)

国内の地方公共団体のうち、ほぼ 9 割が人口 10 万人以下であることから、こうした小規模団体の実態把握は必要不可欠である。
今回、愛知県西春日井郡清洲町（人口 2 万人弱）の担当者からアクセシビリティに関する取組の現状についてヒアリングする機会に恵まれた。本資料は、議論の参考用としてヒアリングの内容をまとめたものである。（ヒアリング調査実施：平成 17 年 2 月 4 日）

1. ヒアリング結果

- 1) ホームページの調達・運用方針検討（平成 15 年 4 月リニューアル公開）
 - ・ 助役を筆頭に各局部長が参加する「情報化推進委員会」において、既存ホームページに対する住民の苦情を参考に、リニューアルの方向性を検討。
 - ・ 住民に正確な情報を、わかりやすく、リアルタイムに提供するため、各課職員がページを制作・更新する方針に決定。
- 2) ホームページの調達事例と運用状況
 - ・ 各課職員によるワーキンググループを設置。ホームページの内容検討と同時に、ページ作成ソフトの研修を実施し、各課でページを作成。初めに幹部クラス理解が得られていたため、ワーキンググループの作業は短期間に円滑に進んだ。
 - ・ 「ホームページ作成要領」により、背景色の統一や色覚障害者に配慮した色の組合せについて最低限の取り決めを行う。
 - ・ 制作途中及びテスト公開時、外部の専門家等から色や画像の使い方、画像の代替テキストの入れ方についてアドバイスを受け、修正を行う。
 - ・ 公開後は、各課職員がページを作成。課内で決裁が取れたものを企画課担当職員が確認し、画像の代替テキスト等に問題がなければ公開する。
- 3) アクセシビリティに関する取組の現状
 - ・ 画像に代替テキストを入れることを徹底。音声ソフトだけでなくナローバンド環境で画像表示に時間がかかる場合も考慮した。
 - ・ 公開済みのページについては、企画課担当職員がリンク切れを点検する。アクセシビリティに関しては、JIS 規格の関連図書を参考に、気づいた点から順次修正している。
 - ・ 職員研修やポリシー作成は個人情報保護（セキュリティ）が最優先となっており、アクセシビリティまでは行っていない。
- 4) 課題
 - ・ 町内に全盲のウェブ利用者があるか把握しておらず、意見を聞くことができないので、どう対応すればよいか悩んでいる。
 - ・ 合併を控えているが、合併協議会では各課から情報発信という考え方が理解を得られない。

2. ヒアリングに基づく分析（事務局）

- ・ ウェブサイトの調達・運用方針、アクセシビリティ確保の意識が異なる自治体が合併した場合に、既存サイトの質が低下する恐れがある。
- ・ アクセシビリティ確保への意識は高くても、アクセシビリティ点検が十分に行われないと、結果的にアクセシビリティの確保が不十分となる。
- ・ 職員がウェブを利用する障害者と接する機会が少ない場合、実際の利用シーンやアクセシビリティの必要性をイメージしづらい。（特に地方の自治体に多いケースと思われる）
- ・ 住民の意見を取り入れてリニューアルを行った事例だが、障害者からの意見はなかった模様。自治体側から積極的に障害者の意見を求める取組が必要と思われる。